

UBC研修で育む、言葉と心の交流

主幹教諭 田橋 知直

2025年3月24日から4月1日までの9日間、高校1・2年生計18名が、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)での研修に参加しました。世界大学ランキング41位 (Times Higher Education 2025) のUBCで寮生活を送り、英語集中講座やUBC生との交流を通じて即興的な「やりとり力」を鍛えてきました。相手からの問いかけに対し、YesやGood.といったリアクションに一言二言つけくわえることで会話をふくらませる技術を意識的に磨く。たったそれだけで、これまで培ってきた英語力が一気に花開きました。本校が日々の授業で大切にしているリフレクションの時間をじっくり確保し、その日を振り返り、それをもとに明日への目標を明確にし、チームで共有することでお互いの成長を支え合う。そんな関係が出来ていました。優秀で人柄も素晴らしいUBC生からは、語学だけでなく人間として学ぶ点が多く、より広い意味でコミュニケーションに大切な要素を学びました。私たちのテーマはpay forward(恩送り)。この研修で受けた様々な好意を、今後の生活で周りの人たちに返していきたいと思います。



「この指とまれ」から始まった物語

創造コース教育推進部長 牛込 紘太

見渡す限り何もない場所で、「一緒に何か新しいことをやろう!」と声をかけたとき、果たして何人の人がこの指に止まってくれるでしょうか。この春、卒業した創造コース1期生32名は、間違いなくその指に止まり、そして自らの手で道を切り拓いていった勇者たちでした。そこには欠かすことのできない担任の姿があり、そして何よりも、子どもたちや創造コースを温かく見守り、応援して下さった保護者の皆さまの存在がありました。振り返ってみると、創造コースが目指したのは、何か先進的で特別なものを取り入れることではなく、むしろ教育の原点に立ち返ることだったと感じます。自分自身と向き合い、社会の一部としての自分に目を向け、そこから改めて「自分」に気づいていく——。それは、創造コースにプロジェクトという仕組みがあり、生徒が自らの問いに向き合い、答えを導き出す機会があるからこそ実現できたのだと思います。

2期生もまた、誰かが敷いた道を歩むのではなく、自ら新たな道を切り拓いていくことになるでしょう。そんな生徒たちとともに歩み、共に創っていくコースであり続けたいと思います。

